

既存道路の価値再評価へ5項目

日本風景街道自治体連絡会（会長・熊川栄群馬県婦恋村村長）とNPO日本風景街道コミュニティ（代表理事・石田東生筑波大学名誉教授）は5月、国土交通省に日本風景街道の発展へ向けた第2回提言をした。

地域活性化への役割を再認識

提言は「高速道路ネットワークが日本列島に整いつつある今、改めて枝道、脇道、古道を含めた既存道路の価値を再評価し、地域活性化への役割を再認識し、日本風景街道が掲げる真の目的実現に取り組む必要がある」と指摘。

①日本風景街道の水準を高める美しい・魅力的な道づくりを推進②日本風景街道の主要ルートと枝道、脇道、古道等を結節し、辿れるルートの明確化③日本風景街道の効率的な高い支援体制を構築④目的が類似、関連する制度や施策との連携には、日本風景街



道が担える利点を説明し、Win-Winの関係をつくる⑤自らの管理道路で先行実践——の5項目を掲げた。

道の質を高める

①では、世界水準の観光立国実現のため道の質を高める／高速道路の整備が進む中、並行する幹線道路の質的改良

が必要で新たな機能・形として日本風景街道との連携が重要／北海道開発局が試行する「秀逸な道」を参考に日本風景街道の水準を高める道づくりを推進／社会インフラの老朽化による更新、強靱化が進められている今が低コストで美しい道、魅力的な道再生のチャンス——と述べる。

②では、主要ルートから枝道、脇道、古道を辿るルートの明確化／枝道、脇道、古道等に物語があり、風景や生活文化等、日本文化に触れ合い、体感する舞台で外国人観光客の地方誘致に効果／地域では世界遺産、日本遺産、テーマ別観光など文化庁や観光庁が推進する施策と活動団体

が加わり、両庁と連携を構築——とアピール。
③では、活動資金難、人材難の問題の切身を掘り下げ分析が必要／活動を支援する諸制度を有効に使う能力に地域差があり、各種事業支援制度への企画、申請、管理、報告をアドバイザー・支援する「日本風景街道支援センター」（仮称）を設置／日本風景街道登録を目指す地域にノウハウを提供する申請支援／地域活性化に寄与できる日本風景街道の有効性を説明し企業等との協働体制を構築——など指摘。
④では、道の駅は情報提供に苦勞。日本風景街道の利点は道の駅に至る沿道風景づくりや地域とルートを辿る情報提供で、連携・分担を図る。重点「道の駅」の公募選定で優先的に評価する事項に「風景街道等との連携」が加わっ

企業との協働体制も

③では、活動資金難、人材難の問題の切身を掘り下げ分析が必要／活動を支援する諸制度を有効に使う能力に地域差があり、各種事業支援制度への企画、申請、管理、報告をアドバイザー・支援する「日本風景街道支援センター」（仮称）を設置／日本風景街道登録を目指す地域にノウハウを提供する申請支援／地域活性化に寄与できる日本風景街道の有効性を説明し企業等との協働体制を構築——など指摘。

た。道の駅設置者の地方自治体を巻き込んだ協議・調整が必要——と強調。

魅力的な道づくりを

⑤では、日本風景街道自治体連絡会に加盟する市町村が管理する道路では、率先して美しい道・魅力的な道づくりに取り組み——と提言した。

シーニックバイウェイと観光地域づくり

「日本風景街道大学ニセコ羊蹄キャンパス×シーニックバイウェイ北海道推進協議会」が9月20日、北海道ニセコ町のニセコ町民センターで開かれる。国際観光地ニセコ町の特性を踏まえて「シーニックバイウェイと観光地域づくり」がテーマ。同町のインバウンドの取り組みを紹介するほか景観の保全・活用など地域活性化を考える。シーニックバイウェイとして日本風景街道の活動先進地の北海道だが、日本風景街道大学が開催されるのは初めて。